

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 2 区分
 【発行日】平成 19 年 11 月 8 日 (2007.11.8)

【公開番号】特開 2005-210070 (P2005-210070A)
 【公開日】平成 17 年 8 月 4 日 (2005.8.4)
 【年通号数】公開・登録公報 2005-030
 【出願番号】特願 2004-313942 (P2004-313942)
 【国際特許分類】

H 0 1 G 9/00 (2006.01)

H 0 1 G 9/08 (2006.01)

H 0 1 G 9/048 (2006.01)

H 0 1 G 2/08 (2006.01)

【F I】

H 0 1 G 9/00 3 3 1

H 0 1 G 9/08 F

H 0 1 G 9/04 3 1 9

H 0 1 G 1/08 A

【手続補正書】
 【提出日】平成 19 年 9 月 19 日 (2007.9.19)

【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

外装ケース内にコンデンサ素子が収納されてなるコンデンサにおいて、
 前記外装ケースと前記コンデンサ素子との間にこれらに接触状態に、熱伝導率が $1 \text{ W / m} \cdot \text{K}$ 以上の熱伝導材が介装されていることを特徴とするコンデンサ。

【請求項 2】

前記熱伝導率が $1 \text{ W / m} \cdot \text{K}$ 以上の熱伝導材として、
 アルミナ粒子、窒化アルミニウム粒子、窒化ホウ素粒子及び酸化亜鉛粒子からなる群より選ばれる 1 種または 2 種以上の粒子がマトリックス材中に分散されてなる熱伝導材が用いられた請求項 1 に記載のコンデンサ。

【請求項 3】

前記熱伝導率が $1 \text{ W / m} \cdot \text{K}$ 以上の熱伝導材として、マトリックス材中にアルミナ粒子が分散されてなる熱伝導材が用いられた請求項 1 に記載のコンデンサ。

【請求項 4】

前記粒子の平均粒径が $0.5 \sim 5 \mu\text{m}$ である請求項 2 または 3 に記載のコンデンサ。

【請求項 5】

前記熱伝導材における前記粒子の含有率が 70 質量% 以上である請求項 2 ~ 4 のいずれか 1 項に記載のコンデンサ。

【請求項 6】

前記マトリックス材としてシリコンオイル又はノ及び変性シリコンオイルが用いられた請求項 2 ~ 5 のいずれか 1 項に記載のコンデンサ。

【請求項 7】

前記マトリックス材として合成樹脂が用いられた請求項 2 ~ 5 のいずれか 1 項に記載のコンデンサ。

【請求項 8】

前記合成樹脂としてポリオレフィンが用いられた請求項 7 に記載のコンデンサ。

【請求項 9】

前記ポリオレフィンとしてポリプロピレン又はノ及びポリエチレンが用いられた請求項 8 に記載のコンデンサ。

【請求項 10】

前記コンデンサ素子の高さの 30 % 以上が前記熱伝導材と接触状態にある請求項 1 ~ 9 のいずれか 1 項に記載のコンデンサ。

【請求項 11】

前記外装ケースはアルミニウム製である請求項 1 ~ 10 のいずれか 1 項に記載のコンデンサ。

【請求項 12】

電解コンデンサであることを特徴とする請求項 1 ~ 11 のいずれか 1 項に記載のコンデンサ。

【請求項 13】

前記コンデンサ素子は、陽極箔と陰極箔との間にセパレータが介在されて捲回されたものからなる請求項 1 ~ 12 のいずれか 1 項に記載のコンデンサ。